(19)日本国特許庁(JP)　(12)**公開特許公報(A)**　(11)特許出願公開番号
特開2008-112258
(P2008-112258A)
(43)公開日　**平成20年5月15日(2008.5.15)**

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
G06Q 50/00	***(2006.01)***	G06F	17/60	124	
G06Q 10/00	***(2006.01)***	G06F	17/60	506	

審査請求 未請求　請求項の数 2　ＯＬ　（全 11 頁）

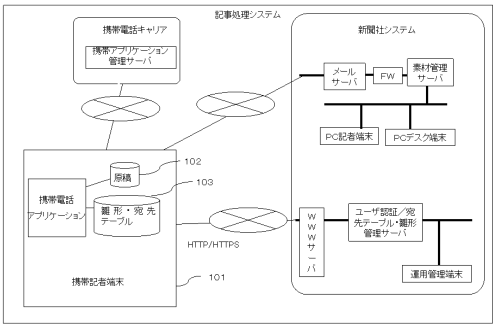
(21)出願番号　特願2006-293840 (P2006-293840)
(22)出願日　平成18年10月30日 (2006.10.30)

(71)出願人　000003078
株式会社東芝
東京都港区芝浦一丁目１番１号
(71)出願人　301063496
東芝ソリューション株式会社
東京都港区芝浦一丁目１番１号
(74)代理人　100109900
弁理士　堀口　浩
(72)発明者　嶋田　光臣
東京都港区芝浦一丁目１番１号　東芝ソリューション株式会社内
(72)発明者　北澤　勝也
東京都港区芝浦一丁目１番１号　東芝ソリューション株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】携帯記者端末

(57)【要約】
【課題】　突発的なできごとの記事を、取材現場からリアルタイムに送稿することができる携帯記者端末を提供することにある。
【解決手段】　携帯記者端末は定型的な入力情報（記事の付帯情報の一部）をプリセットした雛形をサーバからダウンロードして使用する。記事の送信先部署名を記者がプルダウンメニューから選択すると、携帯記者端末はその部署用の雛形を同時に選択する。携帯記者端末は続けて雛形に記事を埋め込み、プリセット済みの付帯情報と記事を含んだ記事データを自動で作成する。
【選択図】　図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
文字列の入力により作成したメール本文の送信が可能な携帯記者端末において、計算機言語形式により表現された所定の付帯情報の項目を含む雛形を原稿の種別ごとに外部から受信して記憶する第１の記憶部と、文字列として入力された原稿を種別ごとに記憶する第２の記憶部と、前記原稿にその種別に対応する前記雛形を適用して前記付帯情報の項目を当該種別及び当該記者を入力した記者に関する情報によって補完することにより前記計算機言語形式により表現されたメール本文を作成する雛形適用部と、前記メール本文を送信する送信部とを備えることを特徴とする携帯記者端末。
【請求項２】
宛先テーブルを外部から受信して記憶する第３の記憶部を備え、前記第１の記憶部は前記雛形を前記宛先テーブルの宛先との対応関係に基づき外部から受信して記憶し、前記雛形適用部は前期宛先テーブルから選択された宛先との対応関係に基づき前記雛形を前記原稿に適用することを特徴とする、請求項１に記載の携帯記者端末。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、携帯記者端末に係り、例えば、携帯電話アプリケーションを用いた携帯記者端末に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、新聞社では、価値ある新鮮なニュースを読者に届けることが日々の業務で求められている。このため、ノートパソコンを利用した記者端末（以下、「ＰＣ記者端末」という。）は新聞記者にとっては当たり前の取材ツールとなっている。しかし、ＰＣ記者端末を開かずに取材現場から速報を送りたい、たまたまＰＣ記者端末を持っていなくても記事をタイムリーに作成して送信したい、といった声が新聞記者から出ている。
【０００３】
一方、携帯電話は多機能化が進み、ビジネスツールへの活用も活発化している。災害時に携帯電話の電子メール通信網は確保される見込みのため、更なる活用に注目が集まっている。
【０００４】
こうした中、クライアント・マシンに入力された校閲素材言語データを、サーバ・マシンに蓄積された言語データベースの参照のもとに、遠隔的に校閲する技術が開示されている（例えば、特許文献１を参照。）。
【特許文献１】特開２００４－２５２９２２号公報
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
しかしながら、従来技術においては、新聞記者がＰＣ記者端末で利用している機能を、携帯電話に適用し、記事原稿作成端末として用いることが困難であった。例えば、ノート型とはいえ、ＰＣ記者端末には相応の重量がある。よって、常に持ち歩くわけではないから、突発的な出来事が起こったときに、ＰＣ記者端末が手元に無いということがある。突発的なできごとの記事を、取材現場からリアルタイムに送稿することができないという問題があった。
【０００６】
携帯電話については、従来のメール機能では、定型情報の入力が毎回必要であり、記者端末としては作業効率が高いものではなかった。
【０００７】
記事処理システムについては、従来の携帯電話によるメールで原稿をサーバ側で受信しても、取り込みに手間がかかるという問題があった。また、システムによっては原稿のフォ

ーマットが変わるため、従来の携帯電話ではこれに対応することが困難であった。

【０００８】

そこで、本発明は、突発的なできごとの記事を、取材現場からリアルタイムに送稿することができる携帯記者端末を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００９】

上記目的を達成するために、本発明による携帯記者端末は、計算機言語形式により表現された所定の付帯情報の項目を含む雛形を原稿の種別ごとに外部から受信して記憶する第１の記憶部と、文字列として入力された原稿を種別ごとに記憶する第２の記憶部と、前記原稿にその種別に対応する前記雛形を適用して前記付帯情報の項目を当該種別及び当該記者を入力した記者に関する情報によって補完することにより前記計算機言語形式により表現されたメール本文を作成する雛形適用部と、前記メール本文を送信する送信部とを備えることを特徴としている。

【発明の効果】

【００１０】

本発明によれば、突発的なできごとの記事を、取材現場からリアルタイムに送稿することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１１】

以下、本発明の実施例について、図面を参照しながら説明する。

【実施例１】

【００１２】

図１は、携帯記者端末を含む記事処理システムの構成図である。携帯記者端末は、本システムにおいて、携帯電話キャリア内のサーバや、新聞社内の認証・宛先テーブル・雛形管理サーバと連携する。携帯記者端末は、携帯電話アプリケーション、原稿記憶部、雛形・宛先テーブル記憶部を有する。これらは、携帯電話の基本ソフトの上に提供される携帯電話アプリケーション実行環境の上で動作する。

【００１３】

本システムにおいて、携帯記者端末は、携帯電話キャリアとインターネットを経由して接続される。また、新聞社システムとインターネットを経由して接続される。携帯記者端末は、携帯電話により実現される。

【００１４】

携帯電話キャリアは、携帯電話アプリケーション管理サーバを備える。

【００１５】

新聞社システムは、メールサーバ、ＦＷ（ファイアウォール）、素材管理サーバ、ＰＣ記者端末並びにＰＣデスク端末からなるネットワークと、ＷＥＢサーバ、ユーザ認証／宛先テーブル・雛形管理サーバ（以下、「サーバ」という。）並びに運用管理端末からなるネットワークとを有し、各々がインターネットを経由して携帯記者端末と接続される。新聞社システムの各種サーバは、オープン系サーバにより実現される。ソフトウェアとしては、ＯＳ、Ｗｅｂアプリケーション実行環境、Ｗｅｂ／アプリサーバ、Ｗｅｂアプリケーション及びＤＢＭＳを構成要素とする。新聞社システムの各種端末は、デスクトップパソコンやノートパソコンにより実現される。ソフトウェアとしては、ＯＳ及びＷｅｂブラウザを構成要素とする。

【００１６】

図２は、記事処理システムにおける原稿作成・送信の概念図である。携帯記者端末は、携帯電話アプリケーションにより原稿を作成する。すなわち、本文入力、主見出し入力、末尾編注入、副見出し入力及び見出し編注といった編集操作を、各々の関連画面において行う。例えば本文入力画面においては、本文は縦書き表示のテキスト（文字列）として編集される。図２に示すように、当該表示画面は、実際の新聞紙面に現れるような形で編集するようになっている。画面左上には現在の編集行の行番号が、右上には編集可能な残り行

数が表示される。画面下部には、編集ボタン、確定ボタン、メニューボタンが表示される。

【００１７】
編集された原稿の各々は、原稿ボックス画面において、そのタイトルが一覧表示される形で、内部に記憶される。タイトルの中から一つを選択すると、メール送信、検索、原稿コピー、原稿削除、ユーザ設定といった機能を選択するためのプルダウンメニューが現れる。

【００１８】
原稿送信を行うために、メール送信ボタンを押下すると、宛先を選択した上で、編集した縦書きテキストがＸＭＬ形式に変換され、これがメール本文に埋め込まれ、インターネット経由で送信される。

【００１９】
新聞社では、メールサーバが当該メールを受信する。受信したメールの原稿を、ＦＷを介して接続された素材管理サーバへ自動的に取り込む。取り込まれた原稿は、さらに、素材管理サーバに接続されたＰＣデスク端末で編集する。

【００２０】
また、新聞社のネットワークにダイヤルアップ等で接続されたＰＣ記者端末においては、Ｗｅｂブラウザによる入力画面で当該原稿を編集する。すなわち、受信した原稿を確認し、記者・デスク端末へ手動取り込み及び修正する。また、記者・デスク端末から素材管理サーバへ原稿を送信する。

【００２１】
図３は、携帯記者端末の環境設定及び変更の運用の概念図である。携帯記者端末の携帯電話アプリケーションは、携帯電話キャリアのビジネス用Ｗｅｂサイトにおける携帯電話アプリケーション管理サーバからダウンロードする（Ｓ３０１）。そして、新聞社ネットワークとの間において、認証をし、社内Ｗｅｂサイトから宛先テーブルや雛形をダウンロードする（Ｓ３０２）。また、社内Ｗｅｂサイトから、アプリケーションや宛先テーブル、雛形の更新情報がメールで通知される（Ｓ３０３）。

【００２２】
新聞社の社内Ｗｅｂサイトは、ＷＥＢサーバをインターネットの接点に設置し、ＷＥＢサーバは携帯記者端末通信ＦＥＰ（フロントエンドプロセッサ）に接続される。これは、認証サーバ、宛先テーブル・雛形管理サーバ及びメールサーバからなるものである。この宛先テーブル・雛形管理サーバが、宛先テーブルや雛形を携帯記者端末にダウンロードさせるものである。

【００２３】
図４は、運用管理端末での各種情報登録の運用の概念図である。携帯記者端末の認証情報、宛先テーブル、雛形は運用管理端末から登録する。認証情報の登録については、携帯記者端末用通信ＦＥＰの運用管理画面から認証情報の入力・登録が行われる（Ｓ４０１）。雛形作成については、運用管理端末上のメモ帳などの汎用エディタを使用して雛形を作成する（Ｓ４０２）。宛先テーブルの作成、雛形の登録については、携帯記者端末用通信ＦＥＰの運用管理画面から宛先テーブルの情報登録時に雛形を指定する（Ｓ４０３）。

【００２４】
図５は、携帯記者端末の原稿作成に関する画面遷移図である。原稿ボックス画面からは、本文入力画面及び後述するメーラ画面に遷移する。本文入力画面からは、原稿ボックス画面、末尾編注入力画面及び主見出し入力画面に遷移する。末尾編注入力画面からは本文入力画面に遷移する。主見出し入力画面からは本文入力画面、原稿ボックス画面、副見出し入力画面及び乱し編注入力画面に遷移する。見出し編注入力画面からは主見出し入力画面及び副見出し入力画面に遷移する。副見出し入力画面からは主見出し入力画面、見出し編注入力画面及び原稿ボックス画面に遷移する。

【００２５】
原稿作成では本文、主見出し、副見出し、末尾編注、見出し編注もそれぞれ入力し、作成

した原稿は携帯記者端末の中で保管・管理する。また、作成した原稿をメール送信する。

【００２６】

携帯記者端末の原稿管理機能として、原稿ボックス画面は、最大９９本の原稿を主見出しでリスト表示する。また、原稿ボックス画面は、各原稿の操作状態を「編集中」又は「メール」として表示する。

【００２７】

本文入力画面、主見出し入力画面、副見出し入力画面、末尾編注入力画面及び見出し編注画面は、記者原稿専用の縦書き表示画面を提供する。縦書き表示画面は一般紙面の１１字詰めで表示する。原稿は最大１００行の入力をする。末尾編注入力画面では、不足文字を編注に字解で入力する。見出し編注入力画面では、見出しの編注も個別に入力する。

【００２８】

メーラ画面は、携帯メールを送信するためのものである。作成原稿は携帯電話の標準のＥメールで送信する。件名に宛先部署名、原稿の主・副見出し、テキストに原稿本文が自動挿入されてメールが作成される。

【００２９】

図６は、携帯記者端末のユーザ情報及び雛形設定に関する画面遷移図である。原稿ボックス画面からは、ユーザ設定画面に遷移する。ユーザ設定画面からは、原稿ボックス画面、送信宛先選択画面及び雛形取得画面に遷移する。送信宛先選択画面からはユーザ設定画面に遷移する。雛形取得画面からはユーザ設定画面に遷移する。

【００３０】

送信宛先選択画面では、原稿の送信先を複数事前に登録する。送信宛先選択画面においては、原稿を送信する予定の部署を、あらかじめ複数選択して登録しておく。原稿のメール送信時は宛先をこれらからプルダウンメニューで選択する。

【００３１】

ユーザ設定画面では、使用者名、所属部署の設定をする。具体的には、原稿の付帯情報となる使用者及び所属部署をあらかじめ設定する。また、所属部署はプルダウンメニューから選択する。

【００３２】

雛形取得画面では、携帯記者端末の雛形設定機能として、サーバ側で用意されている雛形を利用する。雛形取得画面で、部署ごとの雛形をダウンロードする。雛形には原稿の定型的な付帯情報を記載しておくことで、原稿作成時の作業を省力化する。

【００３３】

これによれば、原稿の付帯情報となる端末の使用者名や所属部署の設定・管理ができる。また、原稿送信先部署を必要な分のみ事前に選択でき、あらかじめ原稿の付帯情報が記載された雛形を利用できる。

【００３４】

図７は、サーバの各種情報運用管理に関する画面遷移図である。ログイン画面からは、認証情報管理画面に遷移する。認証情報管理画面からは、ログイン画面及び宛先テーブル・雛形管理画面に遷移する。宛先テーブル・雛形管理画面からは、認証情報管理画面に遷移する。

【００３５】

認証情報管理画面では、認証情報登録のために、携帯記者端末のユーザＩＤ、ユーザ名、パスワード、電話番号の登録をする。

【００３６】

宛先テーブル・雛形管理画面では、送信先部署及び雛形の登録のために、原稿の送信先部署名及びメールアドレスを登録し、部署ごとに雛形を選択、登録する。なお、雛形の作成はメモ帳などの汎用ツールで行う。

【００３７】

このように、携帯記者端末の運用に必要な情報（端末の認証情報、送信先部署名、雛形）をサーバ側で一元的に運用管理する。運用管理機能はサーバに接続される運用管理端末上

のＷｅｂブラウザから操作する。
【００３８】
一方、携帯記者端末は、ログイン機能、原稿編集機能、原稿コピー機能、原稿削除機能、原稿検索機能、原稿管理機能、ユーザ情報設定機能、通信機能、メーラ連携機能を有する。
【００３９】
ログイン機能は、ユーザID／パスワードのチェックを行うものである。関連画面は、ログイン画面及び利用確認画面である。
【００４０】
原稿編集機能は、本文、主見出し、副見出し、末尾編注及び見出し編注といった５つの原稿を編集するものである。なお、本文に関してのみ、文字列検索、指定行移動を行う。関連画面は、原稿ボックス画面、本文入力画面、主見出し入力画面、副見出し入力画面、行番号入力画面、末尾編注画面、見出し編注画面及び検索文字入力画面である。
【００４１】
原稿コピー機能は、原稿のコピーを行うものである。関連画面は、原稿ボックス画面及び原稿検索結果画面である。
【００４２】
原稿削除機能は、原稿の削除を行うものである。関連画面は、原稿ボックス画面及び原稿検索結果画面である。
【００４３】
原稿検索機能は、原稿の主見出しから文字列検索を行うものである。関連画面は、原稿ボックス画面及び原稿検索結果画面である。
【００４４】
原稿管理機能は、本アプリケーションで作成した原稿を保存するものである。関連画面は、原稿ボックス画面である。
【００４５】
ユーザ情報設定機能は、使用者名、雛形などのダウロードサイトＵＲＬなどを設定し、メールの送信先部署を設定するものである。関連画面は、ユーザ設定画面及び送信宛先選択画面である。
【００４６】
通信機能は、原稿をメールに渡すフォーマットを記述した雛形、及び宛先部署、メールアドレス、紐付く雛形を記載した宛先宛先をHTTP/HTTPSでダウンロードするものである。関連画面は、雛形取得画面である。
【００４７】
メーラ連携機能は、携帯電話内蔵のメーラを起動し、本アプリケーションで作成した原稿を、題名・宛先・本文へユーザが選択した雛形のフォーマットで渡すものである。関連画面は、宛先部署選択画面である。
【００４８】
図８は、サーバの機能ブロック図である。サーバは通信機能、運用管理機能、認証情報管理データベース（ＤＢ）、宛先テーブル雛形管理ＤＢを有する。
【００４９】
通信機能は、送受信機能、認証機能、雛形提供機能及び宛先テーブル提供機能を含んでいる。送受信機能は携帯記者端末と送受信をし、処理要求を振り分け機能に伝達する。振り分け機能は、処理要求を、認証機能、雛形提供機能又は宛先テーブル提供機能へ振り分ける。
【００５０】
認証機能は、認証依頼受付、端末情報受信及びユーザ情報送信をするものである。具体的には、記者端末がアプリケーションサーバにアクセスする際に記者端末の認証を行う。これらの処理に応じて、認証情報管理ＤＢを参照する。
【００５１】

雛形提供機能は、雛形提供依頼受付及び雛形送信をするものである。具体的には、記者端末からの要求に基づき、アプリケーションサーバに登録されている雛形を提供する。これらの処理に応じて、宛先テーブル雛形管理ＤＢを参照する。

【００５２】

宛先テーブル提供機能は、宛先テーブル提供依頼受付及び宛先テーブル送信をするものである。具体的には、記者端末からの要求に基づき、アプリケーションサーバに登録されている宛先テーブルを提供する。これらの処理に応じて、宛先テーブル雛形管理ＤＢを参照する。

【００５３】

認証情報管理ＤＢは、ユーザサイト区分、ユーザＩＤ、端末ＩＤ及びユーザ情報などを対応付けて管理するものである。

【００５４】

宛先テーブル雛形管理ＤＢは、ユーザサイト区分、宛先ＩＤ、宛先名称、メールアドレス及び雛形名などを対応付けて管理するものである。

【００５５】

運用管理機能は、認証情報管理機能及び宛先テーブル雛形管理機能を含んでいる。これらは、接続された運用管理端末のＷｅｂブラウザから操作される。

【００５６】

認証情報管理機能は、端末情報設定及びユーザ情報設定をするものである。

【００５７】

具体的には、アプリケーションサーバで扱うデータの運用管理機能へのログイン機能を提供する。また、ユーザ管理、宛先テーブル管理、宛先管理の各機能を使用する際のユーザID／パスワードのチェックを行う。ユーザ種別（一般ユーザ、サイト管理者、システム管理者）によりログイン画面後の表示画面が異なる。関連画面は、ログイン画面である。

【００５８】

また、サイト管理機能として、サイト（記者端末のユーザや宛先テーブルをまとめたグループ）を管理する機能を提供する。サイト自体の新規登録、編集、削除を行う。関連画面は、サイト一覧画面、サイト選択画面である。

【００５９】

また、ユーザ管理機能として、アプリケーションサーバが端末認証に使用する、端末・ユーザ情報を管理する機能を提供する。ユーザＩＤ、ユーザ名、パスワード、端末ＩＤ（携帯電話の電話番号）、ユーザ種別を新規登録、編集、削除する。関連画面は、ユーザ一覧画面、ユーザ編集画面である。認証情報管理機能が、認証情報管理ＤＢを管理する。

【００６０】

宛先テーブル雛形管理機能は、宛先テーブル作成、宛先テーブル変更、宛先テーブル削除、雛形登録、雛形差し替えをするものである。具体的には、記者端末で使用する宛先テーブルを管理する。部署名、送信先アドレス、雛形の新規登録、再登録、削除する。関連画面は、宛先一覧画面及び宛先登録画面である。本機能が、宛先テーブル雛形管理ＤＢを管理する。

【００６１】

図９は、雛形の詳細図である。雛形は携帯記者端末で作成した原稿の送信フォーマットを定義するものである。ＸＭＬ形式のフォーマットで定義した雛形を利用することで原稿をＸＭＬ形式のフォーマットで送信する。原稿作成時の定型的な付帯情報をあらかじめ雛形に記載しておくことで、原稿作成時の作業を省力化する。

【００６２】

図９の左側は、雛形の一例である。原稿の種類などの付帯情報を、ＸＭＬ形式であらかじめ雛形に記載されている。よって、記者の原稿作成時には入力不要なものである。これに対し、雛形内の特定文字列を原稿や付帯情報に置き換える。例えば、「％Ｓ１２」なる文字列は所属部署名に置き換え、「％Ｓ１１」なる文字列は記者名に置き換える。このようにすることで、生成される原稿を表したのが図９の右側のものである。

【００６３】
図１０は、携帯記者端末の画面設定テーブルである。関連画面名及びその項目名について、数値、単位及び備考に記載されるような設定項目について設定する。ログイン画面の設定項目としては、ユーザＩＤ及びパスワードがある。原稿ボックス画面の設定項目としては、原稿数、本文、末尾編注、主見出し、見出し編注及び副見出しがある。検索画面の設定項目としては、単語がある。行番号入力画面の設定項目としては、行番号がある。ユーザ設定画面の設定項目としては、使用者、ＵＲＬ及び部署名がある。
【００６４】
図１１は、サーバの画面設定テーブルである。関連機能名及びその項目名について、最大値、単位、文字コード及び備考に記載されるような設定項目について設定する。サイト管理機能の設定項目としては、サイトＩＤ、サイト名及びサイトレコードがある。ユーザ管理機能の設定項目としては、ユーザＩＤ、パスワード、ユーザ名、電話番号及びユーザレコードがある。宛先管理機能の設定項目としては、宛先ＩＤ、宛先名、送信先、テンプレート名及び宛先レコードがある。
【００６５】
以上説明したように、本発明の実施例１の構成によれば、携帯電話を使用し、ノートパソコンを開かずに取材現場から速報を送ることができる。つまり、出先でノートパソコンがなくても原稿を作成し送信することができる。また、掲載紙面の文字数に合わせて原稿量が確認できる。さらに、原稿以外の項目の入力作業を少なくできる。
【００６６】
また、記者の突発的事態への対応力、機動性の向上が達成できる。ＰＣ記者端末よりも持ち運びが容易な携帯電話で記事を作成し送信できるため、携帯記者端末のみによる軽快な取材活動も可能になる他、災害時など、PC記者端末が手元にないと想定され得る突発的な状況下でも、PC記者端末のバックアップ機として速報を送信することができるようになる。
【００６７】
また、本発明の実施例１の構成によれば、記事の付帯情報入力作業や送信作業の省力化が図れる。携帯記者端末では定型的な入力情報（記事の付帯情報の一部）をプリセットした雛形をサーバからダウンロードし使用できる。例えば、記事の送信先部署名を記者がプルダウンメニューから選択すると、携帯記者端末はその部署用の雛形を同時に選択する。携帯記者端末は続けて雛形に記事を埋め込み、プリセット済みの付帯情報と記事を含んだ記事データを自動で作成してくれる。そのため、記者の付帯情報入力作業の負荷が軽減され、記者は記事内容の検討により集中できるようになる。
【００６８】
また、本発明の実施例１の構成では、ＸＭＬ形式の記事フォーマット採用により、記事処理システムへの親和性を確保した。記者端末は、記事（本文、末尾編注、主見出し、副見出し、見出し編注）と付帯情報（記者名、記者所属部署名、送信部署名など）を合わせた記事データを、新聞業界で浸透が加速しているＸＭＬ形式の記事フォーマットで送信することができる。そのため、記事を受信する素材管理システムでの取り込み処理はタグ情報の対応づけにより構築できる。つまり、タグ情報をもとに取り込み処置を自動化できる。
【００６９】
記事フォーマットの構造は新聞社が個別に雛形で定義することができ、かつ携帯記者端末へサーバから適時ダウンロードすることができるため、記事フォーマットの変更に容易に対応できる。
【００７０】
また、本発明の実施例１の構成では、軽量な携帯電話ＯＳ用言語の使用により、携帯電話のネイティブ機能と連携する。携帯記者端末のアプリケーションは軽量な携帯電話ＯＳ用言語により実現される。一般に、当該ＯＳ用言語によるアプリケーションはそのサイズが一般に他の言語のものに比べコンパクトであり、起動時間が短い。携帯記者端末はこの利点を活かし、記者のより素早い対応を支援する。

【００７１】
また、当該ＯＳ言語のアプリケーションは携帯電話のネイティブ機能と連携できる。携帯記者端末はこの特徴を利用し、記者が記事を送信するために部署名を選択すると同時に、記事データをメール本文に、また携帯記者端末のアプリケーションが部署名と組みで独自にテーブル管理しているメールアドレスを、先に選択された部署名に基づき宛先へ自動セットし、携帯電話のメーラを起動する。メーラの起動後は、記者は送信ボタンを押すのみで、アドレス帳も開くことなく効率的に記事データをメール送信できる。

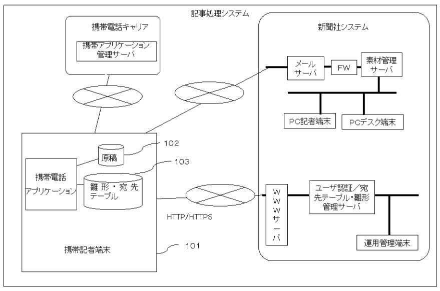
【図面の簡単な説明】

【００７２】
【図１】携帯記者端末を含む記事処理システムの構成図である。
【図２】記事処理システムにおける原稿作成・送信の概念図である。
【図３】携帯記者端末の環境設定及び変更の運用の概念図である。
【図４】運用管理端末での各種情報登録の運用の概念図である。
【図５】携帯記者端末の原稿作成に関する画面遷移図である。
【図６】携帯記者端末のユーザ情報及び雛形設定に関する画面遷移図である。
【図７】サーバの各種情報運用管理に関する画面遷移図である。
【図８】サーバの機能ブロック図である。
【図９】雛形の詳細図である。
【図１０】携帯記者端末の画面設定テーブルである。
【図１１】サーバの機能設定テーブルである。

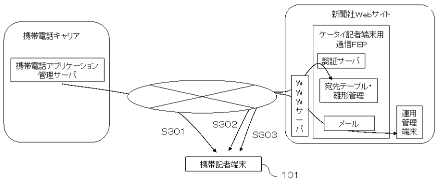
【符号の説明】

【００７３】
１０１　携帯記者端末
１０２　原稿
１０３　雛形・宛先テーブル

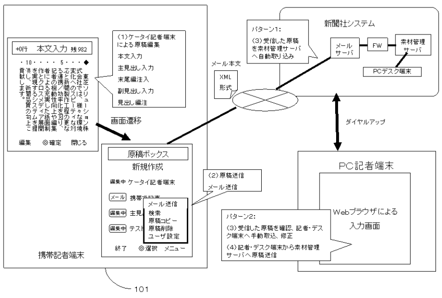
【図１】



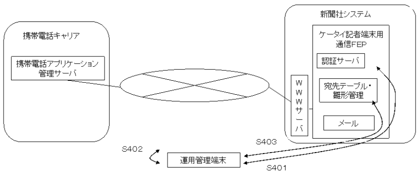
【図３】



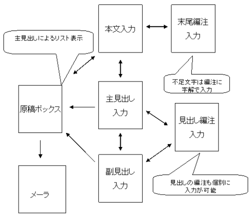
【図２】



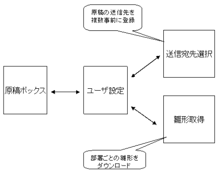
【図４】



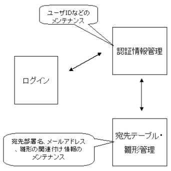
【図５】



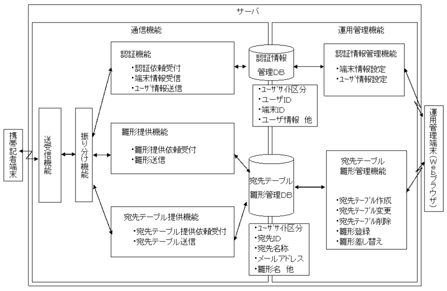
【図６】



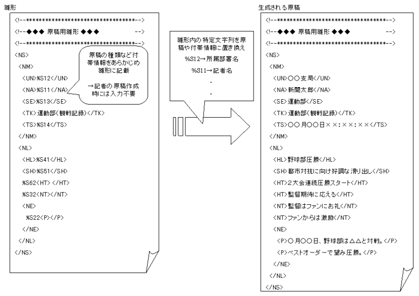
【図７】



【図８】



【図９】



【図１０】

設定項目		数値	単位	備考
関連画面名	項目名			
ログイン	ユーザID	8	文字	英数半角文字(大文字、小文字)
	パスワード	8	文字	英数半角文字(大文字、小文字)
原稿ボックス	原稿数	99	本	
	本文	1100	文字	全角文字(絵文字除く)
	末尾編注	50	文字	全角文字(絵文字除く)
	主見出し	20	文字	全角文字(絵文字除く)
	見出し編注	30	文字	全角文字(絵文字除く)
	副見出し	20	文字	全角文字(絵文字除く)
検索画面	単語	20	文字	全角文字(絵文字除く)
行番号入力	行番号	3	桁	半角数字
ユーザ設定画面	使用者	16	文字	全角文字(絵文字除く)
	URL	256	文字	英数半角文字(大文字、小文字)
	部署名	8	文字	全角文字(絵文字除く)

【図１１】

設定項目		最大値	単位	文字コード	備考
関連機能名	項目名				
サイト管理	サイトID	6	文字	SHIFT－JIS	半角数字(自動採番)
	サイト名	16	文字	SHIFT－JIS	全角文字、英数半角文字(大、小文字)
	サイトレコード	16	件	SHIFT－JIS	レコードのデータ部のみで合計512B以上のディスク容量が必要
ユーザ管理	ユーザID	8	文字	SHIFT－JIS	英数半角文字(大、小文字)
	パスワード	8	文字	SHIFT－JIS	英数半角文字(大、小文字)
	ユーザ名	16	文字	SHIFT－JIS	全角文字
	電話番号	11	文字	SHIFT－JIS	半角数字(ハイフンは入力不要)
	ユーザレコード	2000	件	SHIFT－JIS	レコードのデータ部のみで合計118KB以上のディスク容量が必要
宛先管理	宛先ID	6	文字	SHIFT－JIS	半角数字(自動採番)
	宛先名	8	文字	SHIFT－JIS	全角文字
	送信先	128	文字	SHIFT－JIS	英数半角文字(大、小文字)
	テンプレート名	11	文字	SHIFT－JIS	半角英数字(自動採番)
	宛先レコード	32	件	SHIFT－JIS	レコードのデータ部のみで合計5152KB以上のディスク容量が必要

フロントページの続き

(72)発明者　山元　庸
東京都港区芝浦一丁目１番１号　東芝ソリューション株式会社内